

【愛知県史跡名勝天然記念物調査報告】

大正十二年 愛知県刊

知多郡阿久比町の野生玉蝉花

名称 野生のはなしょうぶ

学名 Iris Kaempferi Sieb

所在 知多郡阿久比村大字草木字上芳池一番一

地目・地積 溜池の南岸にて、その東南隅より西へ延長約二丁

現状 延長二丁の間或はうばめがし、あかそ、かなめの木、えのき、ねずみもち或いは蘆、菰等の生じ居る所に散布す。

草状瘦せたるを以て頗る溪蓀（アヤメ）の如くなるも、葉に剣脊あり。花は、その萼の内側に網紋なく、頗る燕子花（カキツバタ）に類似するも狭細なり。これ恐くは野生の玉蝉花（ハナシヨウブ）ならむ。而して芳池は、溜池として灌漑の用に供す。

由来伝説 寛文の頃、伯耆の国より移植せるものにして、昔時尾張慶勝公にも献じたりしことありと云う。

方言「花勝見」と云う。

寛文は、今より二六〇余年前のことなれども、只、云い伝ふるのみにして、具体的な記録あることなし。土地の物は、此植物を他へ移すも容易に根付くことなしと云へど、元来此類の植物の移植は、可能性のものなり。況んや最初他より持来たりしものなりとすれば、移植し得ざる理勿論これあるべからざる筈なるおや。

所有者 知多郡阿久比村大字草木共有 **管理者** 知多郡阿久比村長竹内六太郎

保存に就きて 目下、特別の方法無し。但し、野生の花しょうぶは、余り多く各地に見るものにあらざるのみならず。古来「花勝見」として伝説を有するものなるにより、所有者に注意して現在の地目を変更せしむることなく、且つ、該植物の発育を助長せしむる様致し度きもの也（原文は、カタカナ）

